

日本に100マイルのトレイルランレースが誕生して14年、トレイルランは少しずつ社会に浸透、マラソン大会の延長かのように多くの自治体で大会が開催されている。一方、国土に限られる日本で世界基準と言える100マイルレースは多くはない。コロナ禍後のランニングブーム終焉や物価高による運営経費の増大により終わりを迎える大会も少なくない。そんな厳しい状況の中、トレイルラン聖地赤城山での100マイルレース開催可能性を探る。

トレイルラン聖地“赤城山”で100マイルレースをつくる

—— 全国事例から100マイルレースの可能性について考える ——

群馬県本部／前橋市役所職員労働組合 高山 祥平

1. 100マイルレースの世界

(1) 肉体と精神、限界のその先に見える世界

はあ、はあ、もう限界だ。幻覚と幻聴が現れて何時間が経っただろうか。夢と現実の境界がわからない。気づくと走りながら寝ている。登山道から外れればそこは奈落の底、ただでは済まない。スタートしてから30時間、2回目の夜を迎え残りは20km。最後の難所、霜山の山越えが残っている。お腹の不調と吐き気・嘔吐に苦しみながらもここまで140km以上無睡眠で進んできた。目標に掲げていた30時間切りが夢と消え、下方修正。完走を確実なものとするため1時間の仮眠を取ることに決めた。

ここは山梨県富士吉田市。100マイルレース(※1)「Mt. FUJI100」のメイン会場である。Mt. FUJI100は日本のトレイルラン(※2)の第一人者であるプロトレイルランナー鏑木毅の考案により2012年に誕生した日本で最初の100マイルレースである。毎年コースは微調整されるが、2026年大会は静岡県富士山こどもの国をスタート、富士山を時計回りに半周して富士北麓公園を經由、山中湖を經由して再度ゴールとなる富士北麓公園に戻る全長165km、獲得標高(※3)は6,000m超。国内外から2,000人以上が参加する名実ともに日本最大のトレイルランレースである。

※1 100マイルレース：本レポートでは160km前後のトレイルラン(※2)レースを指す。

※2 トレイルラン：登山道などを走るスポーツ。なお、本レポートではトレイル＝登山道とし、林道（未舗装路）、ロード（舗装路）と使い分けて表現する。

※3 獲得標高：登った高さだけを全て足し合わせた数値。＝累積標高



Mt. FUJI100 スタートを待つ選手たち



夜間はヘッドライトの明かりを頼りに進む

(2) 100マイルレースの歴史

100マイルレースは、アメリカのカリフォルニア州で開催されるウェスタンステイツ・エンデュランスランが起源とされている。もともとは馬で走る100マイルレースであり、1974年にゴードリー・アインスリーが自らの足で走って24時間以内で完走したことがきっかけで、トレイルランレースとしての形が確立された。以来、アメリカのトレイルレースのスタンダードとなり、多くのランナーが目指す大会となっている。



ウェスタンステイツ・エンデュランスラン

(3) 世界を代表するレース UTMB

①ヨーロッパアルプス、モンブランを駆けける

世界の100マイルレースで最もイメージされるのがUTMB（ウルトラ・トレイル・デュ・モンブラン）ではないだろうか。2003年にスタートしたこのレースはフランス南東部のシャモニーを起点に毎年8月に開催される。ヨーロッパ最高峰のモンブランを反時計回りに一周、フランス、イタリア、スイスにまたがる山岳地帯を走るレースである。2009年にNHKによる取材が入ったことで日本でも広く知られるようになった。これまで日本人の最高位は鏑木毅の第3位（2009年）となっている。スタートとゴール地点になるシャモニーではすべての完走者が称えられ、ランナーたちを包み込む。トレイルランナーであれば一生に一度は出場してみたい大会である。



歓喜に沸くシャモニーの街



アルプスの山々を超える

②UTMBワールドシリーズ

上記UTMBに出場するためには現在ランニングストーンと呼ばれるポイントが必要となっている。そのためポイントレースをシリーズ化、「UTMBワールドシリーズ」として世界各地でポイントレースが開催されている。これまで日本人がポイントを集めるためには海外レースに参戦するしかなかったが、2025年より石川県の加賀温泉トレイルランがこのポイントレースとなっている。苦勞してポイントを集めてでも出場したい、それがUTMBなのである。

(4) 日本のトレイルランの歴史

①日本のトレイルラン

日本では、1913年に静岡県御殿場市で開催された富士登山競走や、1947年の第2回国民体育大会（石川国体）の縦走競技（バックに荷重を背負い、標高差の大きい自然の山岳を走る競技）など、「山岳マラソン」や「登山競争」と呼ばれる文化が早くから存在していた。

1990年には山田昇記念杯登山競争大会（上州武尊山スカイビュートレイルの前身）が国体と同様の縦走形式で開催、1993年には日本山岳耐久レース（ハセツネCUP）が開催され、これが現在の国内トレイルランニングの原点となった。

2000年代以降、「トレイルランニング」の名称を冠した大会の開催が急増する中、2005年に雑誌「ターザン」でプロトレイルランナーの石川弘樹が『トレイルラン』という言葉初めて日本のメディアで紹介した。さらに、上記で述べた2009年UTMBでの鏑木毅の活躍が翌年にテレビで放映され、トレイルランニングの知名度が高まり、一般化していった。



富士登山競争



ハセツネカップ

②鏑木毅

鏑木毅は元群馬県庁職員のプロトレイルランナーで、日本のトレイルラン界における第一人者と言える。鏑木は桐生市新里町出身で中学、高校、大学と陸上競技に没頭するも度重なるケガで挫折。早稲田大学在学中も箱根駅伝出場の夢をあきらめていた。そんな鏑木を変えたのが上記の山田昇記念杯登山競争大会（現在の上州武尊スカイビュートレイル）である。初めてトレイルランの大会に出場した鏑木は登山道での高速走行に戸惑いつつも気づけば全員を抜き去り優勝。そこから一気に日本のトレラン界のトップに上り詰めたのである。主な成績に山田昇記念杯登山競争大会優勝（1997～2003）、富士登山競争優勝（2002、2003）、日本山岳耐久レース優勝（2005）など。海外レースにおいては上記UTMBに2007年初出場で12位、2008年に4位となり群馬県庁を退職、プロトレイルランナーとなった。プロ転向後の2009年UTMBで3位となり、この記録が現在でも日本人最高位となっている。



現在は数多くの大会運営に関わる鍋木毅



優しい笑顔とファンサービスに定評がある

③日本の100マイルレース

2012年、日本初となる100マイルレース、UTMF（ウルトラ・トレイル・マウント・フジ）が開催された。開催のきっかけは鍋木毅による「UTMBの感動を日本でも実現できないか」という思いであった。出張帰りの鍋木は飛行機の窓から見える富士の姿をあの日のモンブランになぞらえ、この富士を一周してつなぐレースができないものかと考えた。この思いが多くの人を動かし、2012年、UTMFは開催を迎えたのである。

当初のUTMFは河口湖町大池公園を起点に富士山を反時計回りに1周するレースであったが、第5回大会では大雨による大幅なコース短縮を経験、荒天時でも確実な迂回路を確保するため、第6回大会からはコースの途中から折り返しによるワンウェイコースに変更、現在までこのかたちで運営されている。富士山を1周するコースにはUTMB同様の「シャモニー（スタート）の街に帰ってきた」という感動・ロマンがあるが、参加者の安全を確保するため、主催者としては苦渋の選択であったに違いない。なお、UTMFは2024年よりMt. FUJI100（マウントフジ100）と名前を変えて現在も続いている。参加者は関連種目を合わせて4,000人超、海外からの参加者も3割を超えるまでのレースに成長した。名実ともに日本最大級の100マイルレースなのである。



UTMF当初のコース



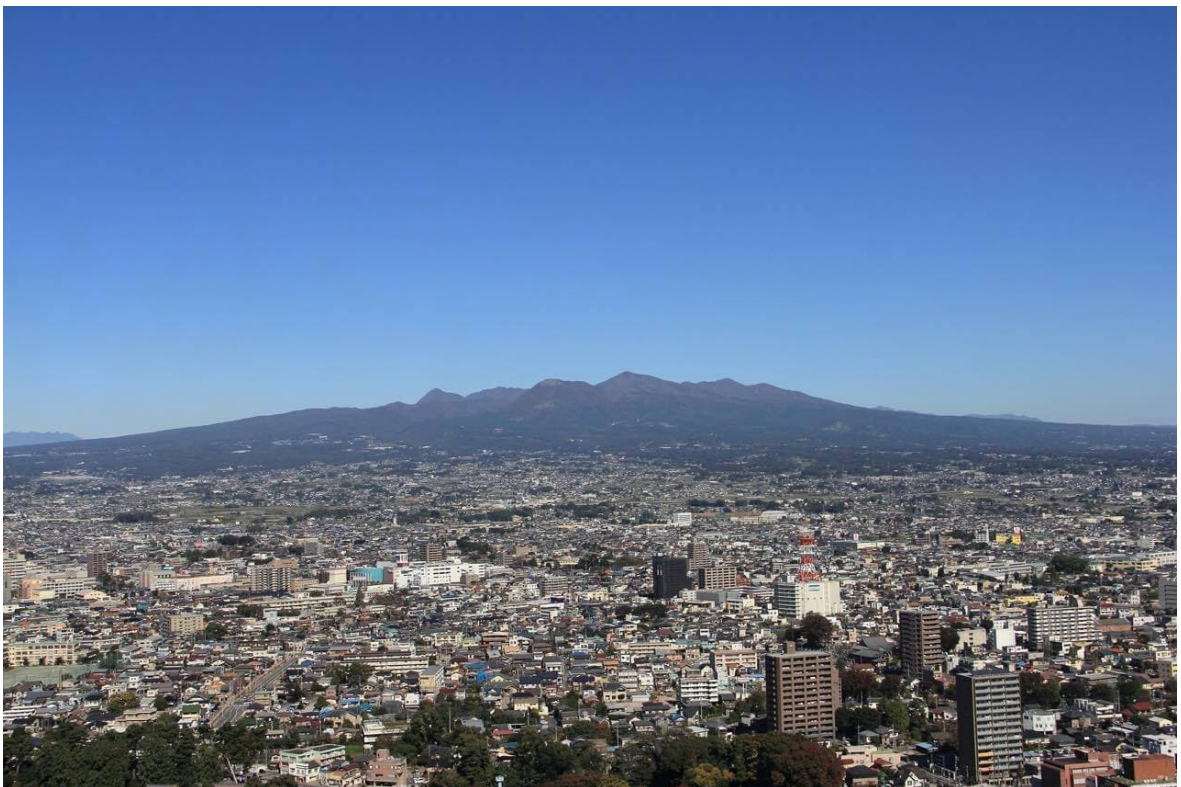
現在のコース

④ 鍋木毅と赤城山

前述したとおり、日本のトレイルランナー第一人者として国内で実績を残し、海外へ羽ばたいていった鍋木であるが、その最も身近な練習拠点となったのが赤城山である。赤城山は標高1,827mの成層火山で、最高点となる黒檜山のほか、駒ヶ岳、地藏岳、鈴ヶ岳など標高1800mから1200mの峰々を取り囲んで円頂を構成、その中央部にはカルデラ湖の大沼や湿原の覚満淵、火口湖の小沼がある。裾野の径が約25kmに及ぶ大きな山体を形成する複成火山で、裾野の大きさは、約35kmの富士山に次ぐ日本で2番目の規模である。

群馬県庁時代にこの山で鍛えた鍋木は言う、「世界のどの山を走っていても赤城山を基準に比較して考えている」と。多くのトレイルランナーにはホームマウンテンがある。その山を基準に距離や獲得標高、登攀時間などを計算（500mアップで約30分など）。レースの際にはこうした基準で予想通過タイムなどを割り出して計算していく。

そしてこのレジェンドを生んだこの山で100マイルレースを開催できないか、UTMBそしてUTMFの感動をこの赤城山で体験できないか、というのが今回のテーマである。



裾野は長し赤城山

2. 全国の事例から今求められる要素を考える

(1) 全国の事例から考える

① 全国の事例から考える

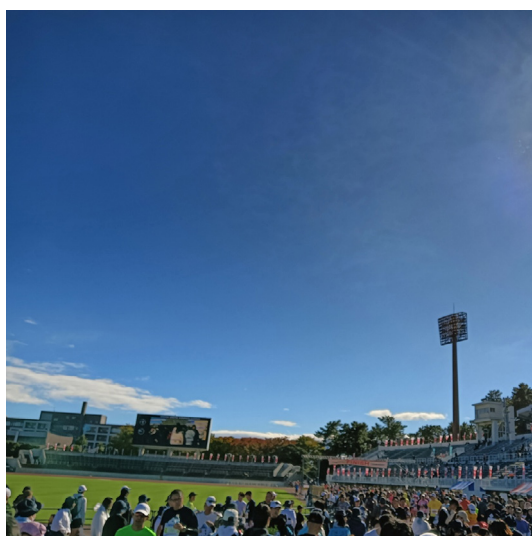
多くのランナーに愛され続ける大会と消えゆく大会、何が違うのだろうか。コロナ禍を機に接触が少ないということで急速に広がったランニングブームも収束。存続する大会と消えゆく大会、どのような違いがあるのかを全国の事例をもとに考察していきたい。なお、多くのトレイルランナーが通常の舗装路を走るマラソンランナーでもあることが多いため、ここではマラソンからの要素、トレイルランからの要素、両方を考察した上で結論を導いていきたい。

② 特色のある大会

マラソン大会にもレジェンドレースとされる大会が多く存在する。例えば出場倍率10倍を超える「東京マラソン」は現在出場者数約37,000人、市民ランナーの憧れだ。ランナーなら誰もが一度は東京の名所を駆け巡りたいと思うのではないだろうか。

また、「勝田全国マラソン」は今年で70回を迎えるまさにレジェンドレース。全国のランナーに愛されており、出場者数は地方大会とは思えない約16,000人。完走者に配布される「完走芋」は地元の名産、なんともあたたかい。

筆者の地元、群馬県前橋市と高崎市にかけて開催される「ぐんまマラソン」も開催規模はさておき、県民・地域に愛され続けている。10月に入ると出場予定者と思われるランナーが地域に溢れ、皆それぞれの目標に向かって走る姿が見られる。大会当日はフルマラソンに限らず10km、4kmリバーサイドジョグと種目が分かれ、ベビーカーで赤ちゃんと参加することも可能だ。開催日が毎年11月3日文化の日で固定されていることから、「家族でマラソンを楽しむ日」として浸透している。地域の活性化・県民の健康に寄与していることは間違いなさそうだ。



ぐんまマラソン にぎわうゴール地点



ぐんまマラソン リバーサイドジョグ

③ 消えゆく大会

一方、消えゆく大会も少なくない。決算問題が浮彫りとなり消滅した「松本マラソン」。タイムがでないというネガティブな印象とは裏腹に国宝松本城の周りを走れる貴重な大会であった。スターターを地元出身のスピードスケートメダリスト小平奈緒が務めることもあり、スタート会場の熱気は素晴らしいものであった。ゴールの松本空港ではパパママの応援にきた子供たちが空港内の公園で楽しく遊んでいる。春の長野マラソン、秋の松本マラソン、長野県内でも2大マラソンと言っているいいバランスが取れていたが、諸般の事情には敵わない。なんとも無念な消滅である。

筆者の住む前橋でもかつて「前橋渋川シティマラソン」という大会が存在した。ハーフマラソンであったシティマラソンを拡大、周辺自治体と協力してフルマラソン化を実現したところだったが、コースのほとんどがサイクリングロードで市街地を走れる区間が少ない上、アップダウンが激しすぎるなどの理由からあまり人気の出ない大会でもあった。ゴール手前2kmの最終エイド(※4)、群馬名物「焼きまんじゅう」にむせて苦しむランナーの姿は大会を象徴するような光景であった。

鍋木毅がプロ転向後最初に手掛けた「神流マウンテンラン&ウォーク」も存続の危機に立たされている。この大会は群馬県南部で開催されるトレイルランレースで、神流町という過疎化進む地域をトレイルランの力で盛り上げようと過去16回開催された。トレイルランと地域活性化を掛け合わせた先駆的な取組みであったが、担い手不足などを背景に2025年大会を最後に現在の規模での実施を終了するとされている。県内では人気のあった大会だけに復活を望む声も大きい。

このように消えゆく大会には様々な事情があるように感じられるが、「予算」「担い手」「参加者数確保」などは共通課題であると感じられる。

※4 エイド：マラソン大会などで水や食料などの補給ができるエリア。＝エイドステーション



幻に消えた前橋・渋川シティマラソン



むせても食べたいソウルフード焼きまんじゅう

(2) 参考にすべきトレイルランレース

①全国のトレイルランレース

続いて、トレイルランに限って大会を見るとMt. FUJI100のような数千人規模の大会はあまり多くない状況となっている。マラソン大会以上に個々のレースで特色が出るため、事例を紹介しながら今、求められている要素を考えていきたい。

【全国の100マイルトレイルランレース】（2026年6月1日現在で一般公開されている主なもの）

No.	大会名	開催地	開催月	距離 (km)	獲得標高 (m)	トレイル 率(%)	完走率 (%)	コース方式	優勝タイム	開催 回数
1	女川100TRAILS	宮城県女川町	3月	161	8,180	65	途中中止	同一コース周回	22時間23分37秒	2
2	Mt.FUJI100 (UTMF)	富士市、富士吉田市ほか	4月	165	6,461	52	70.69	ワンウェイ	17時間50分13秒	12
3	トレニックワールド in 彩の国	埼玉県越生町、飯能市ほか	5月	163	10,000	約80	24.9	複数コース周回	26時間53分18秒	11
4	TOKYO GRAND TRAIL	東京都奥多摩町ほか	5月	153	8,480	80~90	55.5	スタート地点に戻る	19時間59分15秒	4
5	ROUND GIRLS 100	静岡県富士市	5月	160	3,760	70~80	73.4	同一コース周回	25時間15分44秒	2
6	TAMBA100 アドベンチャートレイル	兵庫県丹波市ほか	5月	174	16,300	85~95	39	市街を中心に一周	35時間38分04秒	3
7	クマン100	広島県江田島市	6月	160	5,200	42以下	31	同一コース周回	24時間20分01秒	4
8	DEEP JAPAN ULTRA	新潟県魚沼市、長岡市、三条市、加茂市	6月	173	9,109	80~90	46.4	スタート地点に戻る	26時間16分45秒	4
9	OSJ ONTAKE100	長野県木曽郡王滝村	7月	157	3,875	0 (林道)	59.6	複数コース周回	14時間55分20秒	7
10	信越五岳トレイルランニングレース	新潟県妙高市、長野県長野市、信濃町ほか	9月	163	7,100	90	47.4	ワンウェイ	19時間52分07秒	8
11	OSJ KOUMI100	長野県小海町	10月	165	7,916	23	45.6	同一コース周回	23時間39分24秒	11
12	LAKE BIWA	滋賀県南西部山岳エリア	10月	170	10,500	80	73.7	ワンウェイ	25時間12分38秒	5
13	球磨川リバイバルトレイル	熊本県八代市、五木村ほか	11月	167	9,400	70	57	ワンウェイ	24時間45分07秒	4
14	FunTrails Round 秩父&奥武蔵	埼玉県秩父市、飯能市	11月	160	9,722	80	36.7	スタート地点に戻る	24時間34分00秒	2
15	BAMBI100	奈良県生駒市ほか	11月	160	6,000	60~70	93.3	同一コース周回	28時間00分00秒	4
16	京都グレイトラウンド	京都市、大津市ほか	12月	165.8	7,880	80	約60	市街を中心に一周	26時間05分29秒	3

②特色のある大会1：トレニックワールドin彩の国

埼玉県で毎年5月に開催されている「トレニックワールドin彩の国」は国内最難関に数えられる100マイルレースの1つだ。その完走率はなんと30%未満。埼玉県ということで山の標高自体はそれほど高くないものの、永遠と続くアップダウン、厳しい暑さと制限時間によりこの完走率となっている。トレイルランの世界では100マイルレース完走者を「100マイラー」と呼ぶが、この大会はその厳しさゆえ完走者には「彩ラー」の称号が与えられる。「彩ラー」はとことん鍛え上げられた一部の上級トレイルランナーにだけ与えられる特別な称号なのである。



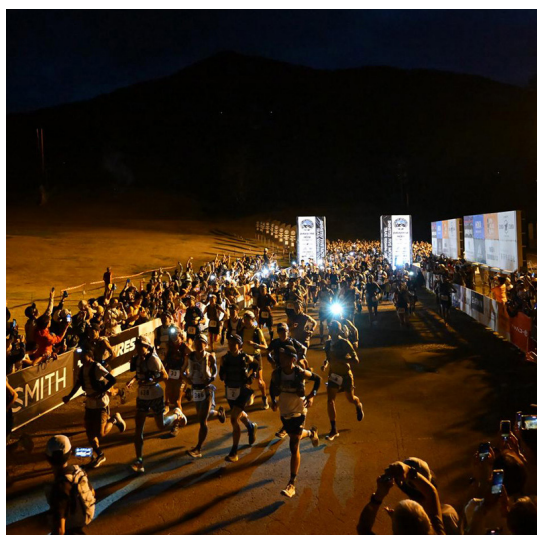
新緑のレースは暑さとの闘い



長時間レースではエイドでの補給が大きなカギ

③特色のある大会2：信越五岳トレイルランニングレース

「トレイルラン」という言葉を日本に広めたプロトレイルランナー石川弘樹プロデュースの本格的な山岳レース。大会では新潟から長野にまたがる山岳地帯、信越高原の雄大な自然を満喫できる。Mt. FUJI100とともに国内では非常に人気の高いレースとなっており、毎年申込開始時には壮絶なクリック合戦が繰り広げられる。毎年10分程度で申込がいっぱいになるほどの人気ぶりである。



100マイルレースでは夜間スタートも一般的



美しい森をいくつも超えていく

④特色のある大会3：BAMBI100

コンセプトは「誰にでも挑戦しやすい100マイルを」。日本を代表するトレイルランナー土井陵がプロデュースする日本一やさしい100マイルレース。奈良県の生駒山麓と矢田丘陵をつなぐ1周40kmのコースを時計回りに4周160km、累積標高は約6000m、参加条件は「100マイル以上を走ったことがない」こと。初めての100マイルレース挑戦をサポートするために特化した大会なのである。参加できる枠は僅か30人。順位は付かず、完走者全員が一人ずつ表彰される。平均的な100マイルレースの参加費が30,000～50,000円と高額であるのに対してBAMBI100は8,000円。精神面からお財布事情までとことん100マイルへのハードルを下げた大会なのである。



参加者が少なくても完走への支援は万全



多くの小鹿(バンビ)がこの夜景に助けられた

⑤特色のある大会4：ROUND GIRLS 100

こちらは「女性ランナーがプロデュースする女性だけの100マイルレース」。静岡県富士山こどもの国を起点に20kmの周回コースを8周する。大好評だった第1回2025年大会を経て2026年も盛大に開催された。100マイル以外にも100km、40km、20km部門を用意、初めてのトレイルランから初のロングレース完走まで幅広く女性ランナーを応援する。周回コースの特性として、冒険要素が少なくなるものの、運営の資源を集中することができる。エイドステーションの超充実をうたっているのはこの大会ならではの。その他にも完走に向けた独自の取り組みとして、コース上で選手を応援しながら逆走する応援ランナー、公式に選手のサポートを行うおせっかい軍団公式サポート隊、選手の妊娠発覚時のキャンセル対応などが設定されている。女性目線で女性のチャレンジを全力応援する、まさに唯一無二の大会と言える。



女性のための100マイルレース



林道も多くとにかく走りやすい

(3) 愛され続いていく大会として必要な要素

トレイルラン全体に言える「美しい景色」「自然の豊かさ」といった要素は100マイルレースに限らず多くのレースが持っている特色である。こうした部分は必須要素として、存続していく大会にはプラスアルファの要素が必要である。それはUTMBやMt. FUJI100、信越五岳トレイルランニングレースのような圧倒的な大自然やレースという名の壮大な旅を通して生まれるロマンであるのかもしれない。また時にはトレニックワールドin彩の国のような挑戦を跳ね除ける絶対的な「厳しさ」であったり、BAMBI100やROUND GIRLS 100のようなすべてを受け入れる「優しさ」であるのかもしれない。

3. 赤城山で100マイルレースをつくる

(1) UTMAプロジェクト始動

「トレイルラン聖地“赤城山”で100マイルレースを」。この言葉をキーワードに市内のウルトラランナー(※5)たちが今、静かな動きを見せている。(仮称) UTMAプロジェクトはそんなウルトラランナーたちの期待を胸に動き始めた。UTMBの感動をもう一度日本で、そしてUTMFの感動をもう一度。ここからは現在検討中で実現に向けて動きだしているこのプロジェクトについて紹介したい。ちなみにUTMAは「ULTRA TRAIL Mt AKAGI」の略である。なお、UTM…という名称は現時点でのプロジェクトイメージに合うため仮称として使用しているものである。(UTMFはUTMBグループからの商標問題を提起され、2024年からMt. FUJI100に名称変更している。)

※5 ウルトラランナー：フルマラソンを超える100kmウルトラマラソンなどを主戦場とするランナー

(2) レースコンセプト

本章冒頭で述べたようにこのUTMAプロジェクトはUTMBとUTMFに強いインスピレーションを受けている。当然レースコンセプトは赤城山を一周、「スタート地点の前橋に戻ってくる」ことをコンセプトに考えている。昼夜問わず150km以上を駆け抜けてやっと見える利根川と関東平野、ゴールまでの下りは日本で2番目に長い赤城の裾野を正面にして下る参加者のウイニングロードである(後述のコース案②参照)。と、ここまで理想を述べつつ、これを最終系として、様々な大会で導入されている周回方式なども検討、今どういう大会が現実的で求められているのか、多様な選択肢を排除せずに検討していきたい。

(3) コース案

① コース検討の前提条件

実は一つの山の裾野だけで1周する100マイルレースが完結できる山は日本に存在しない。富士山でさえも裾野の長さが足りないため、UTMFにおいても第1回大会から西側の天子山地や東側の山中湖周辺山域をコースに組み込んでいる。当然、富士山より裾野が短い赤城山でも同様に、周辺の山域をコース上に組み込む必要が出てくる。

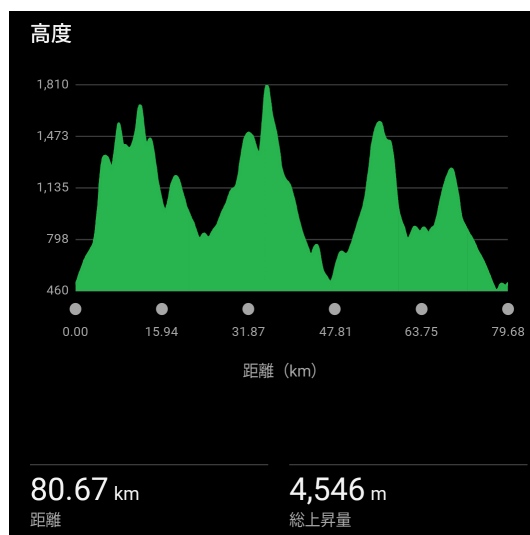
② 同一周回コース

国立赤城青少年自然の家→鍋割山→荒山→地藏岳→六道辻六面地藏→十二社→鈴ヶ岳→五輪峠→黒檜山→花見ヶ原キャンプ場→沼田大間々線→利平茶屋キャンプ場→鳥居峠→長七郎山→おおさる山乃家→赤城温泉→荒山登山口→国立赤城青少年自然の家(総距離80.6km、同一コース2周)

これが現段階で最も現実性が高く、高いトレイル率(50%以上)を維持、赤城山本来のトレイルを満喫できるコースである。国立赤城青少年自然の家を起点に赤城山を構成する主要全山を一筆書きする80kmのコースである。大会ではこのコースを2周する。獲得標高は9,000m以上。上級者も唸らせる山岳コースである。



1 周約80kmの周回コース



赤城山の主要全山を網羅

③赤城山一周コース

道の駅まえばし赤城→国立赤城青少年自然の家→鍋割山→荒山→赤城温泉→おおさる山乃家→長七郎山→鳥居峠→利平茶屋キャンプ場→みどり市東町方面へ迂回→袈裟丸山→郡界尾根登山口→利根八木原大間々線→花見ヶ原キャンプ場→黒檜山→五輪峠→鈴ヶ岳登山口→赤城町深山→赤城スポーツセンター→子持神社→金島駅→りんご団地中央公園→渋川総合運動公園→つつじヶ丘→伊香保森林公園→オンマ谷風穴→水沢山→水沢観音→水沢足門線→駒寄スマートIC→上毛大橋→道の駅まえばし赤城（総距離168km）

これが100マイルレースの神髄ともいえる赤城山一周コース。コースの随所から赤城山を眺めることができ、山容の変化を楽しみつつ、どのこの地点でもその裾野の長さを感じることができる。レース中盤では東の袈裟丸山、赤城山最高点の黒檜山、後半では水沢山からの眺望も楽しめる。難点としては山と山のつなぎ区間において舗装路が多くなるため、トレイルランレースの基準となるトレイル率50%の確保が容易でないこと。また、後述にある廃道の調査に難航している。理想的なコースであるが、最終的な調整と繰り返しの試走が必須となる。



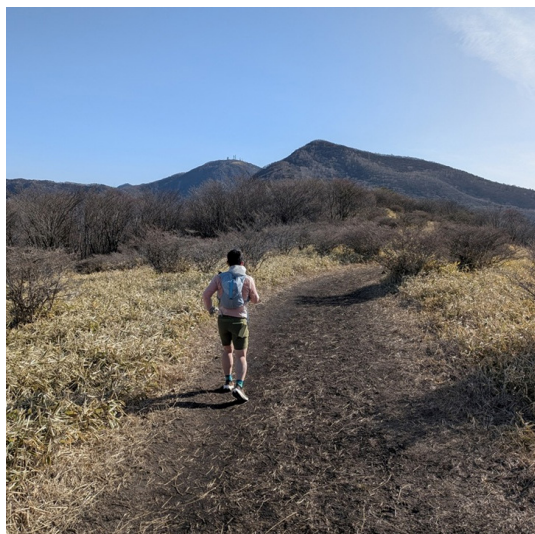
168kmの赤城山一周コース



獲得標高は控えつつもメリハリのあるコース

(4) 試走を繰り返す

試走を繰り返す中でぶつかったのが廃道との関いである。赤城山主要部分の登山道に廃道はほとんどない。しかし、問題は麓と赤城山から外れた周辺部である。林業や過去のレースで整備された道も多くは2～3年人が入らないと自然に帰ってしまう。グーグルマップや登山アプリでは追いきれないこうした道を試走により調査、利用可能なものが見極めをしていくのだ。



ルート確認と試走を繰り返す



現地調査で登山道の崩落が見つかることも

(5) 今後に向けて

① 目指すべき最終形

レースについて動き出す中で聞こえてくるのが「地元で100マイルレースがあったらうれしい」という声である。100マイルレース出場には最低でも2日、平均的には3日以上時間を要する。難コースでは走る時間が長くなるため、週末レースでも金曜日スタートというものが少なくない。通常のマラソン大会と比較して家庭や仕事への負担が大きいのである。

ここまでの事例研究や試走、仲間との交流を繰り返す中で出ている答えとして、これから生み出す100マイル最終レースコンセプトは次のとおりとしたい。

- ・赤城山、上州の自然が満喫できるコースであること。
- ・一定のトレイル率、獲得標高を維持しつつも、比較的完走しやすいコースであること。
→Mt. FUJI100と同程度のトレイル率50～60％程度、獲得標高6,000～8,000m程度を想定
- ・可能な限り大会期間を土日に収め、参加者への時間的負担を抑えること。

② 今後に向けて

レースをつくる上で何よりも大切なことは、関わる人たちへの必要性の意識醸成である。いきなり大きな大会を開催しても人が集まらなければすぐに廃れてしまう。小規模で変化なく続けていても多くの人に必要性を感じてもらうことは容易ではない。このプロジェクトを成功させるためには、検討段階から多くの人に関わってもらい、「走りたい」「一緒に実現させたい」と思ってもらうことが大切である。

そして求められるレースを実現させることが赤城山の価値をより一層高め、結果として登山道の整備、駐車場やトイレといった関連施設の整備が進み、ひいては赤城山を楽しむための好循環につながっていくと確信している。

2027年、このプロジェクトは第0回大会としてスタートする。繰り返してきた試走から試大会へ。仲間とともに試行錯誤は続く。そして0が1に変わる日はそう遠くないだろう。



レース最終盤となる上毛大橋からの赤城山、ゴールを迎える選手たちは何を思うのだろうか

【参考ホームページ】

UTMBワールドシリーズ : <https://utmb.world/>
ウェスタンステイツ・エンデュランスラン : <https://www.wser.org/>
鏑木毅オフィシャルサイト : <https://trailrunningworld.jp/>
富士登山競争 : <https://fujimountainrace.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/>
ハセツネカップ : <https://www.hasetsune.jp/>
上州武尊スカイビュートレイル : <https://skyviewtrail.com/>
女川100TRAILS : <https://onagawa-100trails-running.com/>
Mt.FUJII100 : <https://mtfujii100.com/>
トレニックワールドin彩の国 : <https://trainic-world.org/sainokuni/>
TOKYO GRAND TRAIL : <https://tokyograndtrail.net/>
ROUND GIRLS 100 : <https://rh-track.com/roundgirls100/>
TAMBA100アトペンチャートレイル : <https://rh-track.com/roundgirls100/>
クマン100 : <https://rh-track.com/roundgirls100/>
DEEP JAPAN ULTRA : <https://www.deepjapanultra.com/>
OSJ ONTAKE100 : <https://www.outdoorsportsjapan.com/trail/ontake100/race-ontake100/>
信越五岳トレイルランニングレース : <https://sfmt100.com/>
OSJ KOUMI100 : <https://www.outdoorsportsjapan.com/trail/koumi100/>
LAKE BIWA : <https://lakebiwa100.com/>
球磨川リバイバルトレイル : <https://kumagawa-trail.jp/>
FunTrails Round 秩父&奥武蔵 : <https://fun-trails.com/race/100k/>
BAMBI100 : <https://bambi100mile.com/>
京都グレイトラウンド : <https://go-trail.net/pages/kgktop>
ITRA (国際トレイルランニング協会) : <https://itra.run/>
前橋スポーツナビ : <https://maebashi-sportsnavi.jp/taikai/>